

撰塵裝束抄
全

14
2478
129



裝束寸法



一 束帶

袍ノ長サ

一 主上春宮ハ一御骨ヨリ御キビスニテノ御寸法ニテ
三尺^{イモ}二寸親王大臣^{イモ}ハ可^{イモ}有^{イモ}了見^{イモ}餘^{イモ}年^{イモ}少^{イモ}次^{イモ}
中^{イモ}ノ^{イモ}御^{イモ}止^{イモ}人^{イモ}七^{イモ}寸^{イモ}余^{イモ}地^{イモ}下^{イモ}五^{イモ}六^{イモ}寸^{イモ}何^{イモ}七^{イモ}年^{イモ}少^{イモ}有^{イモ}了見^{イモ}餘^{イモ}
同^{イモ}廣^{イモ}サ



主上院春宮一ノ御骨ヨリ中ノ御指ノサギニテ三寸余
ホトラニニヲリテ御大袖ハ御身ヨリ五分ヒロニ御大袖
外ニ付ニ宮大臣ハ御指ニ五分アリホトラニニラレニ

殿上人ナクハユヒニヒトシ地下ハ聊タラス大袖の身目ヨリ
ワキ一寸五分スナカユニ上(シ)

ハタ袖ノ事

大袖ノ三分カニ也

袖ノ口ノ事

身ト大袖トシ合シ札ニ寸五分或一寸仁ヨリテ可ク見

ハコヒノ事

身ノ廣^{サニ}ハコヒノ長^{サハ}一寸五分ニカシ凡ノ寸法ヨリテ
可定ん此スソニ寸五分セハウシトス(シサキハスソホソナルニ
ナリ袖ノ身目トハユヒノツケキハトノアワイ一寸五分見

ヘシ是ヲ帶トシト云

但帶トシハ前ノ身目トシテ下ニテツルナリ
寸五分ノ間ニ小紐ヲ付ル

ラムノ高サノ事

ハコヒノ長サ三寸五分ヲトル(シタケニヨル)ニ襟ノ左右耳ノ
横丸物ヲアリト云其外寸法ヲハ出タル分襟ノ高サ
三寸五分ヲトル(シ是モ年少可相計アリノサキアリ同

大ツヒノ事

上ハズリノ廣半ナリ下ハ上ヲ二合^{フタツ}タルホトナリ是ハ
上下年ヲ不調ヲ見同

ム子ノシリメノ事

クヒカミノ前ノキワヨリ七寸六寸間也ヲ見上下ヨラス
年少ハ可相計

一下襷

前ノ長^サム子ノヲリメヨリ袍ノラケツキワニテ後ハ
裾別^サラハ帯ハツレ又ホト也裾ツカハ其長^サ仁ヨリテ
長短^{アル}主上大^尺一丈二尺腰ヨリ下方也此外腰上
尺四寸帯ノ上ノモシカタ下ヨリノハ子カ^ハ四五寸
是ヲラ取合テム子ノヲリメヨリイツラホト、ニルス
大納言ヨリ参議ニテ一丈殿上人ハ尺地下七尺但
舟^ノ納言人可尋其人ツイタ^ケヨリ廣^サハ尺八袍
同袖ハ袍一丈ニテモ五分ニテモニサレ

一單

長一丈袖ヨリニサレ袖ノ廣^サ一丈五分袖ヨリ廣^サ身ハ袍同

一表袴

長^サ一ノ骨ヨリキヒスニテ寸法ヲ三ヨリテ二分ニサレ寸
ナカシ是ハ殿上人ナトノニヨシ御取サ^ハ大臣ナトハ今一
寸五分長スヘシ又人ノ腰高下ニ見ヘシ廣^サハ長^サノ三分
一ニサレ寸五分ニサレハ大ノ、又之小ノハ大ノ、三分一
札一寸セハ^ハサカリホトハ足ツキ五分カ^ハルホトナリ足ツキ九寸ハカリ寸法
スソノ口一寸分リヲトスヘシニタノカタナリ腰ノ三寸
五分長一丈二尺上下年少可計ヒタラハソノキテ可取

大口事

表袴ニ同足ツキナシスソヨリ上ノ内ハヨシ入ル如此スレハモ、
タ子ヨリ下ハ四エニ寸長^サ表袴ヨリ三寸分リニサレ

直衣夏

長サ袍ヨリ一寸ミシカシ上サハニ寸ミシカシエノ袍ヨリ
二三分ハカリセハミ自余如此

指貫夏

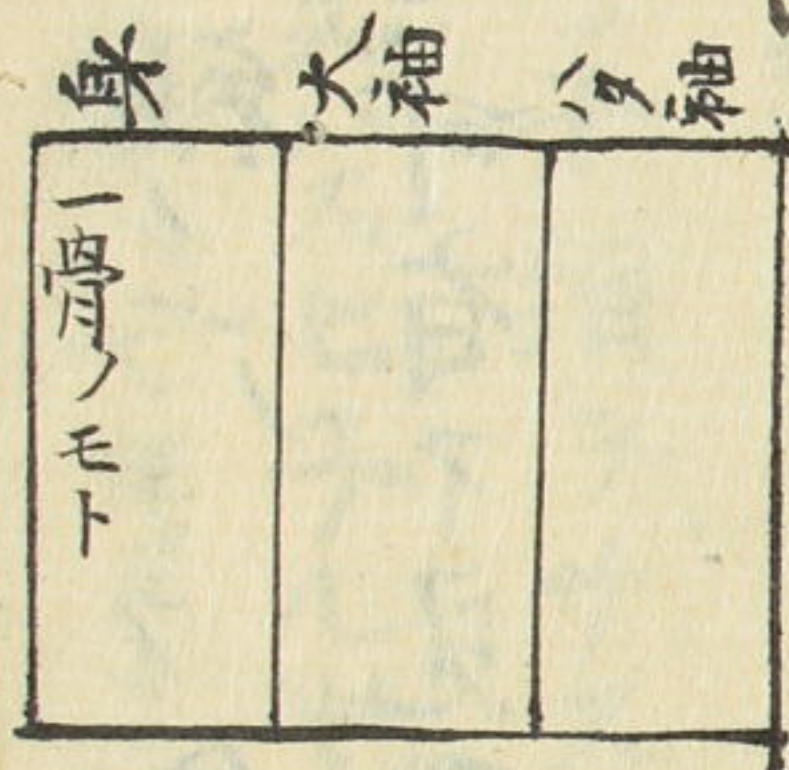
上サハ実身ノ所寸法ニ寸五分ナカシ大尺以下法ノ上
人三寸券地下一寸余或ハ余ナシナ長サヲニツニツリテ
一寸ヒロシ上サノナリ殿上人ナトハ五分ニサ地下ハマニラス
此内ニ大ノ小アリ大ノ小ノ三寸五分ニサ是モ寸法ヨリ
一寸ニサモアリモ、タチハ十カララリ也、タハ一寸アカル
ク、リ一丈二尺ナリ

下袴夏

長サ一尺六サ一寸指貫ニニサレシ

一狩衣夏

長サ前一尺後四寸実身ニニサレ大尺以上如此公ハ大畧
如此大納言以上可在リ見殿上人以下前八寸後二寸
実身ニニサレ地下ノ葎十トハサレミカシ年少又可相
計アサハ実身ニ一寸ニサレ寸法ニ自一骨中指ニテノ
分ニ身ハ大袖ト同ハタ袖ハ一寸五分セハシ紙形ニテ可計
其儀紙形如此



身ハ半寸法ナリ
如此アツル間身ハ二ツ分ノ口ハ大袖ノ
ナサヲ身ニシルスヘシ

袖口夏大袖ハ夕袖ノ一キヲ合テ於二十寸ハ大官以上ナリ
大領言下次第ニ可有見殿上人ハ其寸法指同侍トハ
指ニタラス

袖ノクハリノ事

装束雜事抄曰袖ノ結生ノ白糸ヲ見ニ筋ツ、
入ニ三タニニ深先紫綵十五或十六ニテサス又
幻時毛按形モサス萌木綵十六七ヨリ廿四五或廿
許下テサス香綵廿六七或廿八分リ是ヲサス白糸ハ
六十分カリヨリサス是モ官ニ見ニ白アラノ分ハ
布衣ニ先サ只白糸ノ結ニ萌木綵サス程久
假令廿三四比ニテコ又香モ此萌木綵モサス内ハ

不昔晴ノ取ニ藍トトニ白生平シヲモサスナリ若人用之
十五以前ハケヌキ取十六ヨリウヒラ其後アツホソ老者ヨリ
クハリ六位ハヨリクハリ本儀ナリ雖然當時一向

一 淨衣事

装束雜事抄曰布六丈白布コハノト調上ハ布衣
同但両方ノ袂ヲ前ハ一寸ツ、縫フス鱗袖ノハシヲ内ハ
折テ縫也其外ハヒ子リ前後ノス上下ノ分ソラヒ
子テス袖ノ結白ス、シノニ口クミ露ハカリ入ク十五又
マテハ白生ノ平緋ヲサス或白糸結モ用之此時ハ夕
袖ノハシヲ~~露~~スハスヒ子ルヤ~~夕~~タニニ入狩衣ノコトシハ夕袖
ノハシ縫フト昔ハマロクミヲ縫クハミケルト云今ハ露計

十レ尺其スヘシ袴ノモ同布モタチノ、テ前後通スル
前ニ入テト如此四ノツ、左右ノ袴ニナルハ惣ノ袴ノ
廣昔ハ一尺四寸ニス久カラスト申セトモ今ハ二尺
好テ前一尺六寸ニサタス又腰白生平縮白袴キハナリ

袴衣ヨリツ、レクヌヘシ躰袖ハ一寸ヲトリナリ

袴事

長^サ淨衣ノ前ノ長サニ今一尺三四寸ミシカニエハ^ハ長^サヲ
ニミツリテ七八分セハレニタノ付取自上一尺

一鳥帽子ハ其仁ノヒタヒノキハヨリウレロカニツイイハク
マワシテニツニツリテニ定タケハタカクアラハヘリノチ
ヨホウヒキクハヘリノケ四方ナリヘリノ高一寸ガリカ

ニヨリテ五六分モアリ七八分モアリ可計

束帶 著次第

先著赤大口其後表袴ニ足ヲ入テイマダ腰ヲイワス

次ニ單ニ袖ヲ重テ後袴ノ腰ヲ結腋ノトツリヨリハ

御前ヘヨセテ右ノ方ニ片カキニ結之^ニ臍ノス^ニソ^ニ同程

ハカラフ^{但片ミシカニサガリノ程}或前ニ兩カキニス^{上筋ハ長ク下筋ハタカク}次ニ下襲腰ノ

ハナ深ク入テ帶ニテ腰ヲユ^フ但裾ベキナラハ裾ノ腰ニテ

可結或ハ半臂重テ忘緒ニテ可結之次ニ半臂忘緒ノ

ナワヲ左ニアテ、イタクワヨカラテ結之其後ニ袍ヲ著テ

頸紙ヲ前裝束師ニワシテ後裝束師ニホヲ入先

右ヲ可著右ノ袖ヲ手ニ入下カハナルユハナリ次ニ腰

ワラ深ク今テ前ニワスホトヲ可侍前ニワシラウセテ後
尻ヲ作テ前装束仰ノユニニヲサハサスヘシ尻ノ作ヤ
腋ノ縫目ヨリ千ト前ノ方ヲサレサケテ取テ上ヘリ其
アケルヲ入テヨシヨシホトスソニ見合テ補ノ高サヲハカラ
フヘシ帯ノトヲリヨリシモヲ川上テ腋ノシワニトヒ付ヤ
ウニカラミカクシテ内ニヒ子ルナリ下ヲハヨコサニ取テ上
ヲハタテサニ取テ腰ヲカフヘシ千トトヒカクシタルヨ
尻ヲ帯アテハノ千大ニヒキナセハワキハシワヒカレテ
ツニル前装束師ニヨクトラヘサセテ其上ニ帯ヲ
アツ帯ユヒテノ千尻ノ大小ヲ見ハカラヒテイニヌウ
ルハシクシメサラムサキニ尻ヲ作ヲホスヘシニリタラハ

イクラ程モヌキ出ヘシ大ホヲハカラヒテウセテ尻ノ高サヲ
ハカラヒテ高クハ内ヘヨリカヘシ中ノ縫メヲハ帯ノ下ノトヲ
リヨリモイニヌウサカリメニシラ右ノカトヲハ帯ノ中
スニニアテカイテ中タワニスニ三角一面ニスルト云ハ是ナリ
三角一面トイヘハトテ中ノヌイメヲ装束師ノ前ニ引テ
カトヲツクルコトニハアラス心ハヌ仁サヤウニスルヲアリ
此角ナリ三角ハ両方ノカイニ角クカトアリ中ハ
ナリカ一角ナリ両方カトトニアイハ面スクナル間一面ト云
ヌイメニカトヲアラセシトテツルコトユクヘカラス中ヲ
ヒキクダセアラスレハ三角ニニルナリ両方ノカトヲタカク
シテカトヨリナヲ腋ノカタシハサノト取ヒシキテカ
トヲタテタルヨキナリカトヲタテハ帯ノカタヲ其ニ
カミサレトスルハキタナキナリ帯ノニハヲヨクク腋

ノカタヘシシヤリテシメヨク作ナス尻ノ大小仁^キ見^{ナリ}
相搆袖ノ下ニタラヌヤウニスヘシ腋ノカイヤウ言^ハ尻^{ナリ}
所取サセハ勿^ル論^ス大^ニ長^ク下^ニ比^シオ^シ子^ノイ^ハサ^クス^ニ本^イイ^タル^ナ
テテ公^ノ拜^サレ^ハイ^タツ^キイ^サカ^ルル^ハカ^ラス^殿上^人モ^比分^ニ下^ニ
筋^ニナ^ラハ^キイ^サク^スヘ^シ凡^ノ尻^ハ余^リニ^大十九^ハワ^ロシ^テ比^シ
襦^ヲシ^カヘ^スト^襦ヲ^上ヘ^ハ子^アケ^テソ^レシ^テ上^ササ^マヘ^シ
シキ^テ主^ノヨ^ウロ^ニシ^タシ^トフ^ヘシ^次ニ^袖ノ^衣モ^ニカ^クコ^ト
身^ヨリ^カキ^上次^ニ一^ノシ^ワラ^カニ^エテ^深ク^入テ^同ラ^フ
深^クス^ヘシ^ニシ^ワラ^ハ淺^クホ^ラノ^トシ^リ所^ノ身^ト袖^ト
ト^ノ縫^メヨ^リ三^寸余^身ヨ^リノ^方ナ^リニ^シワ^ハ是^ヨリ^リ
ハ^ニヘ^ニ寸^ニ三^寸ニ^シワ^トハ^タ袖^ノ身^目一^寸ハ^カリ^アル^シ
フ^シワ^ノサ^キム^子ノ^ヲリ^メヨ^リ一^寸或^五分^ウレ^ロコ^スム^子

シリ^メダ^カク^ツツ^キタ^ラハ^ヲリ^メモ^トニ^テア^ルヘ^シタ^カサ^ヒキ^キ
サ^ニヨ^リテ^見合^ハカ^ラウ^ヘシ^テシ^ワハ^タ袖^ノワ^ケメ^ヨリ^シタ^ラ
三^四寸^ハカ^リ入^ヘシ^其比^シソ^ノマ^ヒホ^トニ^シワ^身ヘ^シニ^テシ^レ
ワ^ハ脚^サカ^ルヘ^シテ^同程^ニモ^ス是^ハワ^ロシ^袖ノ^外ハ^ニシ^レ
ワ^ノト^ヲリ^ヨリ^ハタ^袖ノ^スソ^ヘカ^トツ^通ス^ヘシ^サレ^ハト^テカ^タ
ナ^ノワ^ヤウ^ニト^ルコ^トハ^ワロ^シニ^ロシ^ニロ^ヤウ^ニト^ルレ^シタ^ラ
袖^ノス^ソ上^ヘハ^ヌル^コト^ハ地^下ニ^イタ^リテ^ノコ^トナ^リ殿^上
人^ノ上^ハ唐^犬ノ^耳ヤ^ウニ^フラ^クト^サカ^ルヘ^シソ^レサ^クル^ル
シ^タイ^ハニ^ノシ^ハノ^トヲ^リシ^テオ^シス^ソヘ^ニホ^ワカ^レテ^ハタ^ラ
袖^ノソ^ヘシ^タヒ^ニホ^ワカ^レテ^スソ^ヘテ^ヲリ^ワレ^ハ至^ス
ハ^フラ^クト^サカ^ルモ^ナリ^袖ノ^長比^モシ^リノ^コト^ク

比才ニ下箱(ハ)ハ小ツカクへシ洞ヲサケテトリウレシ
袖ヲコセハ衣故大ニナル洞ヲサケテ取テ衣文ヲツケル
ナルへシ此ニ裾ヲ石帯ノ上手ニカクルコト帯釵ノ時ハ足
緒ノアイニカクルナリ殿上人ハ尻ノ右ノハ面ノ白ニシ
二寸分リニセテアラハヘヲウリカヘスへシ云所ハサモセス
只裏ノ黒ニハカリシニスル大方中ノヌイメヲハ前ナリ
両方ノハシヲハラシロヘナリスツノナカサナリ表袴ヨリナ
アカルへシソレモ仁ヨリテケナメアルへシ公卿ハ大畧スソ
ホトナリ前装束師ウエノ分ニノ腰ヲハ結ハ
是ハ前ノ右ノ腋ニワバ片ワナニメ結へシスソサカリ
後ナリ

ホトカタク余ニ長ハワナニ長キ方ヲカイカクへシ袖ノ前
フクラ腋ヲヨククケテタワヤカニ引上へシモ下重両方
一寸余前ヲ云ツ、ナリテ是モ腰ヲタフクトクツロクへシ
前ノ高サ前襦ノツケメニテトクへシ但前フクラヲ本ト
スへシ次半臂ノ前ニホソキ物ヲツイサキナリ両方ノ腋ヘヲ
シヤリテ下具ヲモタスルヤウニ此前ヲハナトツメタ
ヨシ忘緒ハイタクツヨカラス或ハ忘緒ノ前帯ヲハウレロ
分リニアテ、前ヲハハツシテ緒ニハコメス袖ノ衣文カ
ク取ツルハワロキ故に前ヲハツシタラハ後ニクヒサキ
ヲハ帯ニカウシ允前ヲハ半臂ハカリヲ具ノ袖ノ下
ヲ取合テヨコサニ主ノキモタス其後袍ノ袖ヲ入テ

頸カミツ重テヒホシ後装束師入テ侍ヘシ此ニ下カ
ラシキワヲ取テ主ノ後へたノ手ニテ列ニワシテ右ノ手
川カケテたノ手ニテトウエテ右ノ手ヲサシヤリテ背
ノ又イメヲ取テ主ノ上上上列ヘシセノ又イメ十カヨリ
千ト九ヘスクルホトナリ右ノ手ニテ襟ノウケキハシ後へ
引テリスヘシたノ手ニテトウエタルハハスサスニテ右ノ
手ヲウシロヘハル装束師ノたノヒサニテハツレ又ヤウニ押付
ヘシ上カヘニワシヤウセタル時ニ装束師ノ右ノヒサニテ
主ノたノハキニシツケテ前ノ首下前ノウツラハカワフヘシ
上カヘシ大クセシ帯ノシタヲ十カラハカリタテサニナリ
テ^{ウツケ}キワニナリスチカヘテニホワカヌヘシ^{ハカク}ハカクヘカラス
前ノウツラシタヲハアラハシテ上^{たキニテ}アツクシハ下^{上ラキニテ}内ヘシサケテ
其上ニ帯ヲアツヘシ^{諸キニ}トイヒシメエウヘシ^{上キヲ}取テ
たノワキノ下ヨリサシヤルヘシ前ノヒキサハ院春宮御^足ノ
ウニツクホトシ主上ハ今ヤシ高キヤウニナヌ也^{柄柄}ナトハ
一寸分リアカルヘシ大臣ニ寸ハカリ也^{大御言}以下花足ナラハ
ニ寸余アカルヘシ或ニ寸人ノ家ニヨルヘシ^{藏人}双五寸四後五位
ノ雲客ハ六寸ハカリ^袷袷^{後袖}ノ衣文カク時^祀カサ子
又以前ニ下具ヲヨクシ^{重ヲ}ホセテ袖外ワキツシワノソハ
ノヲリメヲトリヒシクヘシ^祀カサ子テ後^{ハツ}ヨクカタナノ
ヤウニハトルヘカラス^祀カサ子テ後^{衣門}ヲウシハシクカク
既其ヲリメ^{ハタ袖ノ}キワヲ^一人ハトラヌヘシ^凡衣門ヲハシ後^{装束}

師カクシ後ツハ上手カスル故ナリハ夕袖ノハシヲサケテハ
サカルクアケテハハカカルク

一下具事

半臂在志下褌裾別折衣倍引相草表袴赤大口

大帷ハ非分物ナリ夏ノ衣ニ草赤帷ヲアセトリト
号テ着白モ赤モ大帷ハアセトリト云夏ハ又草ヲ
コクハリテ張草ト云テ着ス袖ヲハ老者ハ不着歟
此時大帷也折衣ヲハ其ハ不着此表ヲハ十千テ着
ヲ引倍木ト云ナリ余ニ年少ハ大帷ニ骨ナリ
上サレハ御大帷メサス御鞠ナトノ取メス事アリ

十五以前ナシ後赤帷ヲ着白シ十五以前ハ徳走ナニ間帷ハ
白シ十五以後ハ老者ナニ間何モ白キ具ナニ間白シ九鞠ハ
直衣衣冠ニモアトテ赤帷着面白也又白帷ハ勿論イ
ツモ着ル間ナリ細
一直衣着次第

先下袴當杖兼指貫次夏ハ之ニ更衣ノ草ヲ着先者行取トテ

次指貫夏ハ更衣草

次折衣夏ハ更衣草及ハ引倍木妻ヲ不出ハ指貫ノ下ニ着又

説ニ妻ヲ出ストモ下ニ着テ指貫ノ上吉ハ前ヲホロヒテ

出ス説アリ上括ノ取折衣草下袴不着此取ハ大口ハ

只袖ト更表單ト之著様ハ腰ヲマワシテ前ヲサハシトテ
ウチ、カス當時如束帶スソハコヒノ作様下ヲ上ハ人
下クキヒルヤウニシテ上ヨリクキヒルヤウニ下ヘキスヘシ但又下
クキヒルヤウニ上ハカリニテクワセタルヨシトシテ下ヲ帶ノ下
川丸ハハコヒノサキハ子テヨシ縫目ニカトナクテニロキヤウニ
ハスヘシ腋ノシワヨク入シ小紐ノ付所要之帶トシテトテ
袖ノ下ニハコヒノ上ニ寸五分見所ニ付ヘシ腋ノシワ、下具ノ
著様ヨシヘシ衣門如束帶

代人相傳之口傳先一帖奉授少所殿帳
不及外見可令秘託給者云

貞治五年九月六日

藤原永継三位

連阿在判

實身寸法ヲ取事其仁ヲ板ニ立テ一骨ヨリ板敷
一テ可取廣ヲハ丸ノ手ヲノヘテ中指ノサキニテ可
取若此仁普通ニカガリテ腰高クモヒキクモアラハ
腰ノモトニテ寸法ヲ可取

一西子ぬきれあきと四尺

もたら
もたらぬきと下より三寸

一西子一尺五分

大の二尺二寸
小の寸

一西子一尺五分

御前一西子一尺五分

一冬にわかをーの丈敷

所身二丈一尺二寸所あみ八寸二寸

西子二寸所折り六寸のうらぬく油二丈四尺

御所ん八尺九寸

一冬にわかをーの丈敷

御前一西子一尺五分 文明二年三月十日

正長元九月十日

室町殿御寸法

十時康正元八十七

一冬にわかをーの丈敷

身志寄けお尻の寸後三寸 大らひ四尺所ん二寸五分

身志寄けお尻の寸後三寸

大らひ上は月このまら下寸五分

一冬にわかをーの丈敷

大袖一尺五分

折り上げ上二寸折り下七寸

折りのきこ七寸五分

折ん志あ方け一寸五分

一 ほうぬいたけしれ丈守三丈二尺

ぬれあきあうま四尺 （もしたりのみうと下より二尺二寸）

むらさ一尺九寸 （大、一尺九寸）

ちののるましま （一丈一尺） あみん

ちの二丈一寸 （一丈一寸）

以上故取申途自筆とし定む又別十四巻

一 御引直衣官志御方以着袴の寸法

并長三尺二寸 廣七寸五分

御袖引直一丈六寸五分

大袖廣八寸五分 袖廣七寸

一 御衣

長三丈八寸 廣七寸五分

袖を二丈七寸五分 廣八寸五分 内袖を

一 御引直一丈七寸五分 廣七寸五分

その一丈二寸五分 廣七寸五分

一 御引直一丈二寸五分 廣七寸五分

一 ちの

身のたけ二丈七寸五分 廣七寸五分

そののちのたけ一丈二寸五分 廣七寸五分

またその一丈五分

御身八尺七寸五分 二ツ分 一丈九尺

御のあり 四尺

御袖四尺一寸四分 一丈六尺四寸

御身七尺八寸五分 イハ イニ 二尺二寸五分 イナ

御身七尺八寸五分 イハ イニ 一丈九寸五分 イナ

一御身七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

御身七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

御身七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

御身七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

御身七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

一冬御身七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

御身七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

御身七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

御身七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

御身七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

御身七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

御身七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

一以下七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

御身七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

御身七尺八寸五分 イハ イニ イナ イニ イナ イニ イナ

素服

見後愚味記

冠

卷絹

袍

平絹

下重

鼠色二裏

半臂

上單

純色

表袴

鼠色或純色裏掛子色

袖

或純色

大口

或白

扇

或白

香

純色

笏

例

帶

直衣

生絹

指貫

練裏袴

帷

白

相

下袴

花田紙

帶

純色

袴衣

平絹鼠色冬練夏生

衣

純色或白

草上

見類

袍

冬練張如橡

鼠色

下重

表袴

子色

白帷

諒

圖服

見類

冠

卷絹

直衣

純色

指貫

同色

白衣合袴

夏

同束帶

無紋

位袍

純色

下重

表袴

同色

張下

表袴

或掛子色之靴

下重

表袴

同色

張下

裏張

純色

草赤

大口

黑漆

鞘

銀裝

鈿

中陪

皆純色

純色

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '素服' and '見後愚味記'.

纁班犀帶

鶴通 天

檜扇

無文卷纁冠

當平絹毛車

七帝 青蓋

綠安

淡黃末流下簾

隨所褙衣

純色ハウツ花ニ係ル也

濃張草 純色袴

白狩袴白草 臨折近米

同女房裝束 理髮如常 白絹

唐衣白褂單

或花田衣 不着折衣

椽裏

以椽裏ニコトクソ方 表袴

純色 下襲

純色

心喪乃衣束為鼠色直衣

指貫各有

純色衣重

普通亮白白衣之面 嘉美知是院及着純色

西宮記曰心喪裝束纁冠綾袂青朽系青純袴

或用 冠

除重服後一月著輕服

同記曰冬遭喪者一周間服冬裝束夏時遭喪者

又同用夏當朝元冬夏冬依 滋桐公赴 請夏冬更衣

重服者尚依舊例

服者裝束

服者不新削 勿見平板經

切上緒纁冠

古以簾 絹水之 牛角帶

帝王用 當

王公里單袍 四位五位本必落

黑造敷

白草

人之力喪子力父父若喪父母親疎者服時用恒

服之文冠位袍黑表袴鞞劍 當未為舊例作

廢上并及上友儀式下以本下復服位衣

云心家司職者時九日乃布衣上

前尻

著色絹

齊今著表服

玉葉日

步承元 八十四

著純色小直衣指貫等是淨衣之

躰也

皇嘉門院 御服中

同記 壽永元 五十七 此四日大將除服着云文鈍色布衣

同記曰 養和元 三十一 余及大將着所服共濃色之家中

帶直衣椽之裏裏鈍色之於郭外載戶外者素服

重服帶麻繩 卷之三 大將於同所著 先是於家中着布衣袴也 黑也依余例用布狩衣鈍色衣

輕服帶 麻布 卷之三 其色雖黑用輕服帶

四條官沛時知足院及例也

同記曰今日第二十七日二位中將着鼠色練袴衣之裏

同記曰 壽永元 五十五 今日余始出仕椽直衣練指母白帷重服

冠黑香等之用人車前駢不衣冠不着服參院

皇嘉門院 冲服中

代々相傳口傳為子孫記之尤不可洩他家者也

貞治五年九月吉旦藤原永継書之

此一冊者藤原與張取持本也

号五十四

令恩借書寫少之削去年

元禄十五年閏月日平藏

此一冊者村田左近藤原武盛

延享三乙

月官位依死也号圓察

故復原一学平忠候自筆之

一冊借請之由予一覽上写之心

外見不云致之方申淡者也

延享三丙寅年四月十日平田武盛親筆清

書之

